

メディアリテラシーを身に付け、自分の意見を豊かに表現できる生徒の育成

～新聞を読んだり書いたりする NIE の実践を通して～ 日之影町立日之影中学校

教諭 片山弘喜

## 1 主題設定の理由

前任校で NIE の実践を行うことで、課題や取り組むべき内容が明確となり、NIE の全体像を大まかにつかむことができた。

本校は、全校生徒数 125 名の小規模校である。生徒が発表する機会は他の学校より多く、自分の意見をまとめたり、活動の反省を書いたりすることを苦手とはしないが、少人数での限られた人間関係や生活経験の不足により、文章の多様性に乏しい。生徒に「新聞を読むか」とアンケート調査を実施したところ、「テレビ欄はよく見るが、他の記事は余り読まない」という回答が大半を占めた。これは、前任校の極小規模校でのアンケート結果と同様の結果である。このような生徒の実態と前任校で得た成果や課題より、NIE 実践校として、新聞を用いてメディアリテラシー（メディアを主体的に読み解く力）を身に付けさせ、自分の意見を表現できる生徒を育成することができれば、生徒の課題を解決できるのではないかと考えた。

以上の理由から、本主題を設定した。

## 2 研究の内容

生徒のメディアリテラシーや表現力を高めるために、新聞を読むことと新聞を活用して表現することを中心に、以下の内容において研究を深める。なお、取り組んだ内容は、前任校のものとはほぼ同じである。

- (1) 生徒の新聞に対する興味や関心を高める取組
- (2) 新聞を読んで感想や意見を書く取組
- (3) 生徒に新聞を書かせる取組

## 3 研究の実際

- (1) 生徒の新聞に対する興味や関心を高める取組

本校は、学校で新聞を購読しておらず、授業で新聞を活用することも少なかった。そのため、まず、生徒に新聞への興味を持たせ、より多くの新聞を読ませるために、ほとんどの生徒の通路になる廊下に「NIE コーナー」を設置した。(写真 1)



(写真 1 : NIE コーナー)

新聞は、全国紙やブロック紙、地方紙をバランスよく読めるように、次のように購読した。

- 毎日新聞 12月～3月
- 朝日新聞 9月～12月
- 読売新聞 9月～12月
- 日本経済新聞 12月～3月
- 西日本新聞 12月～3月
- 宮崎日日新聞 9月～12月

この購読法では、12月に6紙が配達される。生徒は NIE コーナーにある新聞を積極的に読んでいたが、12月は地方紙(宮崎日日新聞)のみを読む生徒が多かった。

購読を始めて間もない頃は、4コママンガやテレビ欄を読む生徒が多かったが、しだいに、社会面や経済面を読む生徒が増えた。また、テレビのニュースなどで得た情報を新聞で確認したり、自分が興味を持っているスポーツの記事を探して読む生徒もいた。

(2) 新聞を読んで感想や意見を書く取組

平成20年8月に、生徒の「書くこと」の意識調査を行った。その中で、「自分の考えを文章にまとめることが得意か」という項目に対し、否定的（どちらかといえば苦手、苦手である）と答えた生徒が全学年で65%であった。国語の授業では意見文を書く機会が少ない。生徒の実態としても、主語と述語の関係が正しくなかったり、話し言葉と書き言葉の区別がつかなくなったりしていた。

NIE 実践校の指定により、毎日複数の新聞が配達されることとなった。新聞のコラムや投書の記事は、筆者の考えがはっきりと示されており、意見文が書きやすい。そこで、新

聞に掲載された他者の意見に対し自分の考えを書いて表現する力を向上させるために、書くことのトレーニングを行った。

① 活動の実際

題材とするコラムや投書は、生徒が読みやすく、意見や感想を述べやすいものを教師が選んだ。具体的な活動の流れは次の通りである。

- ア コラムや投書を読ませる。
- イ コラムや投書のキーセンテンスに線を引かせる。(キーセンテンスは1段落に1文)
- ウ コラムや投書を読んだ感想や意見を100字程度で書かせる。
- エ 教師が添削する。
- オ 返却されたワークシートをファイルにとじる。

以上の流れで、活動を1週間に一回行い、2学期終了まで実施する計画とした。

分	い	が	で	あ	感	思	私	い	お	て	は	コ
の	主	私		り	謝	の	っ	も	と	き	と	親
気	し	に	思	ま	の	と	た	も	で	エ	て	に
持	た	は	せ	気	は	め	口	ま	い	も	感	
ら		け	ん	持	い	に	け	ら	願	謝		
を	こ	と		ち	と	い	ん	い	人	年	の	
伝	れ	い	る	と	も		か	は	は	で	気	
え	を	る	こ	も	あ		て	え	い	少	大	持
ら	機	の	と		ま	反	く	し	人	は	切	ら
れ	に	こ	こ	り	抗	か	て	の	い	は	と	
る		に	口	の	伝	し	し	中	と	こ	伝	
と	少	な	に	文	え	こ	い	ま	の	思	と	え
い	し	い	出	章	た	し	ら	い	一	い	た	ら
に	こ	か	す	も	こ	ま	ん	ま	人	ま	け	
ご	も	と	常	流	と	い	た	す	こ	す	と	二
す	自	思	気	ん	は							れ

中学生 実業補習学校3 (広島県福山市)

親は人生の師匠 助言に感謝

4月 日

みなさんは日々、親に感謝して暮らしています。「自分よがり」で暮らすことが大嫌いです。人になんか頼むことが大嫌いです。自分から思っていることを、自分の意見を言うのが、この文章を書くこと、長難なことだと思いましたが、助けてくれたお母さんの言葉です。父は勉強をうけ教えるつもりです。でも、親に感謝して暮らしています。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんなに感謝しています。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんなに感謝しています。お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんなに感謝しています。

(資料1：第3学年の生徒が書いた投書の感想例)

活動の時間は1・2年生については火曜日の朝自習の時間で行い、3年生は水曜日の帰りの会終了後に行った。

生徒が書いた作文は教師が添削する。添削は、誤字・脱字の訂正や主述が呼応していないことを指摘し、感想や意見に対して簡単なコメントを加えた。添削者は各学年で分担した。

生徒が書いた作文の例は資料1の通りである。(資料1)

### ② 活動を振り返って

学校行事や集会活動などにより、3年生は6回、2・1年の生徒は4回の実践となった。取組の中で、特に進路指導における小論文や作文の指導に役に立つという教師の意見があり、計画的に実施すれば効果的な活動になると考えられる。

また、生徒の感想からも、「入試の小論文や作文の練習になるので続けていったほうがよい」「書くことの力が伸びると思うので続けてほしい」といった肯定的な意見が多く聞かれた。ただ、特に1年生では、「記事の漢字が読めない」というような意見もあった。今後の実践においては、学年に応じて記事を選ぶ必要がある。

### (3) 生徒に新聞を書かせる取組

学級活動や総合的な学習の時間では、生徒に体験活動や学習のまとめとしてプレゼンテーションや模造紙などにまとめさせる。前任校では極小規模校での取組として個人での新聞作成を行った。作品のバリエーションを広げ、他の生徒とは違った作品を作ることで、生徒自身の活動への満足度が高まった。そこで、本年度はグループによる新聞作成を行った。使用した新聞作成ソフトは「朝刊太郎」(フリーソフト、<http://hp.vector.co.jp/authors/>

VA020605/からダウンロード可能)である。

### ① 活動の実際

今回は第2学年の進路学習における高校調べの中で新聞を作成させた。具体的な学習の流れは次の通りである。

ア 調べたい高校別にグループを作る。

(3～5名程度)

イ 学校紹介のパンフレットやホームページを利用して、高校調べを行う。

ウ 新聞に掲載する項目を整理し、グループで担当を決め、それぞれで記事を作成する。

エ 記事に見出しを付ける。

オ 記事のレイアウトを決める。

カ 誤字、脱字をチェックして完成させる。

上記のア～カの流れで作成した新聞の例は資料の通りである。(資料2、3) グループ分けから新聞完成までに、10時間かかった。



(資料2：生徒が作成した新聞の例①)



(資料3：生徒が作成した新聞の例②)

② 活動を振り返って

新聞のレイアウトを決めることは生徒にとって難しく、トップ記事を決められなかったり、見出しをどのようにすればよいか分からないグループが多くあった。早く完成したグループの新聞にアドバイスを加えることで、紙面を充実させることができた。

3 成果と課題

極小規模校での取組を生徒数125名の学校で実践することで、これまでの成果や課題を活かすことができた。今回のNIEの実践における成果と課題は次の通りである。

(1) 成果

- 多くの生徒が新聞に触れることができるような場所にNIEコーナーを設置す

ることで、生徒の新聞への興味を高めることができた。毎朝、新聞を楽しみにする生徒が多くなった。

- 新聞の記事を使って書く力を高める取組を行うことで、生徒の表現力を高めることができた。また、書いた作文を1分間スピーチに活用することができた。
- 新聞を作成する活動を行うことで、見出しの付け方やレイアウトを実際の新聞と比較させながら指導することができた。

(2) 課題

- 12月は新聞が6紙同時に配達されるため、複数の職員で新聞を読んだり整理したりしたが、時間の余裕がない時の処理に苦慮した。
- 新聞記事を使った作文は、第2、3学年の生徒には効果的であったが、第1学年の生徒にとっては漢字が難しいものもあり、記事の内容を理解することが難しい生徒がいた。
- 新聞作成ソフト「朝刊太郎」を使った授業は生徒には好評であるが、指導に時間がかかるため、計画的な指導が必要である。